

在セネガル日本国大使館月報

2024年1月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 4日、最高裁判所は、ニャン観光大臣に対する名誉毀損によりウスマン・ソンコ旧PASTEF党首に対し執行猶予付き6か月の懲役刑を言い渡した。これにより、同氏の大統領選挙の被選挙権は剥奪される。(5日 Le Soleil)
- 20日、憲法評議会は2月の大統領選挙の最終候補者20名のリストを公表した。主要候補者は、アマドゥ・バ首相、イドリサ・セック元首相、ハリファ・サル元ダカール市長、バシル・ジョマイ・ファイ旧 PASTEF 党首。女性候補者は2名。カリム・ワッド元大臣は二重国籍を理由に却下された。(22日 L'Observateur)

(日本関連)

- 19日、在セネガル日本国大使館は、令和5年度秋の外国人叙勲の対象者であるパパ・ビラマ・チャム首相府政府事務局技術協力局長への旭日中綬章の伝達式を開催した。(22日 Le Soleil)

(社会)

- 14日、高速軌道バス(BRT)の開通式が開催され、サル大統領が出席した。同バスは、電化バスで、ダカール市の中心部と郊外のゲジャワイ市を結ぶ。1日50万人の輸送が見込まれている。(15日 Le Soleil)

ガーボベルデ

- 13日、訪日中のヴィエイラ外務・協力閣外大臣は、辻外務副大臣と会談し、漁業・農業、水、再生可能エネルギー等の分野での協力について意見交換した。(14日 外務省 Facebook)
- 22日、コレイア・エ・シルヴァ首相は、カーボベルデを訪問したブリンケン米國務長官を迎え、開発協力、ウクライナ情勢、アフリカでのクーデタ、海洋安全保障、サイバーセキュリティ強化等について協議した。(22日 opais)

ガンビア

- 30日、タンガラ外務大臣はロシアを訪問し、ラブロフ外務大臣と経済・貿易、インフラ整備、農業分野での協力について意見交換した。(2月1日 The Point)

ギニアビサウ

- 19日、エンバロ大統領は、昨年12月13日から閉会状態となっている国民議会の選挙を今年の10月か11月に実施する方針を示した。(19日 DW)
- 25日、在ギニアビサウ日本大使館は、対ギニアビサウ草の根無償「ビサウ職業訓練学校建設プロジェクト」の開校式、及び無償資金協力「食糧援助(WFP連携)」の交換公文の署名式を実施した。(26日 radiovozdpovogb)

・閣僚の官職名は適宜省略した形とする。(例:タル外務・在外自国民大臣→タル外務大臣など)

セネガル

(内政)

内政一般

- 4日、最高裁判所は、ニャン観光大臣に対する名誉毀損によりウスマン・ソンコ旧PASTEF党首に対し執行猶予付き6か月の懲役刑を言い渡した。これにより、同氏の大統領選挙の被選挙権は剥奪される。(5日 Le Soleil)
- 8日、EUは、2月25日実施の大統領選挙への選挙監視団を派遣することを公表した。9名の分析官、32名の長期監視員、64名の短期監視員の計105名が派遣される予定である。(9日 Walf Quotidien)
- 憲法評議会は、9日夜までに93名の立候補届出者の後援者内容の申請を終え、1回目の審査で承認された9名に加え、2回目の審査で12名が承認(計21名)された。今後その他の立候補書類の審査を経て、20日に最終的な候補者リストが公表される。(10日 Le Soleil)
- 20日、憲法評議会は2月の大統領選挙の最終候補者20名のリストを公表した。主要候補者は、アマドゥ・バ首相、イドリサ・セック元首相、ハリファ・サル元ダカール市長、バシル・ジョマイ・ファイ旧PASTEF 党首。女性候補者は2名。カリム・ワッド元大臣は二重国籍を理由に却下された。(22日 L'Observateur)
- 23日、サル大統領は国際会議場にて、「マッキー・サルの年月」と題する知識人と専門家向けのシンポジウムを開催し、12年にわたる政治・経済運営について振り返った。(24日 大統領府 X)
- 26日、バ首相(大統領立候補者)は、仏メディア France 24 及び RFI のインタビューにおいて、大統領選挙の包摂性、西アフリカ地域情勢、フラン CFA 等について語った。(27日 Le Soleil)

(外政)

二国間・多国間関係

- 5日、サル大統領は外交団向け新年賀詞交換会を開催した。(5日 大統領府 X)
- 9日、第50回仏語圏プレス国際会議が国際会議場にて開催され、サル大統領が出席した。(9日 大統領府 X)
- 9日、サル大統領はオランダの国防大臣を迎え、西アフリカ地域におけるセネガルの役割やサヘル地域での安全問題等について意見交換した。(10日 大統領府 X)
- 11日、サル大統領は、モーリタニアを訪問し、ガズワニ大統領とサヘル地域の治安情勢、漁業協力、ガス田の共同開発等について協議した。(12日 Le Soleil)
- 20日、サル大統領は、コンゴ民主共和国を訪問し、昨年12月の選挙で再選されたチセケディ大統領の就任式に出席した。(20日 大統領府 X)
- 29日、サル大統領は、イタリア・アフリカ首脳会合に出席し、30-31日、バルバドスを訪問した。(30、31日 大統領府 X)

国際情勢・国連機関支援等

- 31日、EU は2月25日の大統領選に向けて32名の選挙監視団がすでに入国し、セネガル全国に配置されることを公表した。(2月1日 Le Soleil)

日本関連

- 11日、2021 年度及び 2022 年度食糧援助(5.0 億円)の供与米 4,800トンの引渡式がコミュニティ開発

省で行われ、伊澤大使とジュフ・コミュニティ開発大臣が出席した。(11日 APS)

- 19日、在セネガル日本国大使館は、令和5年度秋の外国人叙勲の対象者であるパパ・ビラマ・チャム首相府政府事務局技術協力局長への旭日中綬章の伝達式を開催した。(22日 Le Soleil)

(経済)

経済一般

- 16日、若年層の雇用促進を目的とした「第23回初期雇用フォーラム」が、セネガル企業組合により開催され、多数の若者が企業と面談した。(17日 APS)
- 23日、世界銀行は、セネガルの食料安全保障のため、2億米ドルを融資することを公表した。60万人の農家(うち4割は女性)に裨益すると見込まれる。(23日 APS)

(社会)

- 14日、高速軌道バス(BRT)の開通式が開催され、サル大統領が出席した。同バスは、電化バスで、ダカール市の中心部と郊外のゲジャワイ市を結ぶ。1日50万人の輸送が見込まれている。(15日 Le Soleil)

(文化・スポーツ)

- 6日、ゴレ記念碑の定礎式が開催され、サル大統領が出席した。108メートルの鉄塔、展示、映画館、レセプションホール、手工芸品売り場、人身売買に関する研究センター、書店及び庭園などからなる施設が建設される予定である。(6日 APS)
- 15日、サル大統領は「AI:倫理的課題と人間の挑戦」と題するセネガル科学技術アカデミーの年次大会に出席し、AIに関する国家戦略の策定を行っていることを公表した。(15日 Le Soleil)

カーボベルデ

- ネーヴェシュ大統領は新年挨拶において、2024年は貧困、失業、社会的不平等、腐敗対策に取り組むことを宣言した。(1日 santiagomagazine)
- ガルシア・コレイア副首相兼財務大臣は、若者の職業を通じた社会包摂を実現するため、政府が資金調達システムを導入することを公表した。(4日 asemana)
- 保健当局は、デング熱の確認例が低下傾向にあることを公表した。発生以来、261件が確認された(死者はなし)。(4日 opai)
- 8日、サントシュ観光大臣は、2023年の観光客数が90万人に達したことを公表した。これは過去最高だった2019年を12%上回る数字である。(8日 noticias do norte)
- 14日、サッカー・カーボベルデ代表チームは、アフリカネイションズカップ2024に出場し、ガーナを2-1で下した。同カップ5回目の出場において初勝利となった。(14日 noticias do norte)
- 14日、国家統計局は2022年度経済センサスの結果を公表した。2022年には国内に18,160の企業、93,230人の非雇用者が存在し、3,550億エスクード(約5,100億円)の売上高を記録した。(14日 Expresso das Ilhas)
- 13日、訪日中のヴィエイラ外務・協力閣外大臣は、辻外務副大臣と会談し、漁業・農業、水、再生可能エネルギー等の分野での協力について意見交換した。(14日 外務省Facebook)
- 22日、コレイア・エ・シルヴァ首相は、カーボベルデを訪問したプリンケン米国務長官を迎え、開発協力、ウクライナ情勢、アフリカでのクーデタ、海洋安全保障、サイバーセキュリティ強化等について協議

した。(22日 opais)

- 24日、在外カーボベルデ人の人数・所在地等の全体像を把握するための事業「ディアスポラ・マッピング」が始動した。第一回目の調査結果は、2025年12月に国家統計局研究所により公表される予定である。(30日 Expresso das Ilhas)
- 国際NGOトランスペアレンシー・インターナショナルは、腐敗認識指数2023年版を公表し、カーボベルデはサブサハラアフリカの中で2番目(世界180国の中で30番)に腐敗の少ない国としてランクされた。(30日 balai CV)

ガンビア

- バロウ大統領は、新年挨拶において、2023年はインフラ整備、水とエネルギー供給、教育、保健、農業等の分野で著しい成果が上がったことを強調し、2024年は教育に注力していくことを宣言した。(2日 The Point)
- 1-4日、ガンビア子ども基金は若者の声を聞き入れ、若者アドバイザー制度を創設すべくヤングサミットを開催した。(5日 The Point)
- 7日、ガンビア赤十字社は、5月に開催予定のイスラム協力機構サミットの開催に向け、3千名の参加者を円滑に受け入れるため、関係者に対して研修を実施した。(8日 The Point)
- 9日、平和のためのアフリカ会議は、モーリタニアにおいて、バロウ大統領に対しアフリカ平和賞を授与した。(10日 The Point)
- 11日、ガンビア貿易・産業連合は、第17回ガンビア国際貿易市を開催し、ECOWASとヨーロッパの投資家向けに投資を呼びかけた。(12日 The Point)
- 16日、IMFは拡大信用ファシリティの枠組みで、ガンビア向け特別引出権1億米ドルを承認した。同資金は経済改革、インフレ対策、債務軽減、包摂的な成長に向けた構造改革等のプログラムに使用される。(16日 The Point)
- 27日、中国ガンビア農業技術協力プロジェクトの実施チームは、機械化された米作の生産模様を紹介するイベントを中部河川地域のサブ市で行った。(30日 The Point)
- 30日、タンガラ外務大臣はロシアを訪問し、ラブロフ外務大臣と経済・貿易、インフラ整備、農業分野での協力について意見交換した。(2月1日 The Point)

ギニアビサウ

- 2日、エンバロ大統領は、国軍向けの新年挨拶において、2024年は規律と厳格さを重視し、腐敗対策を推進することを宣言した。また、いかなるクーデタの試みも許さないとの発言を行った。(2日 O Democrata)
- 議会与党のPAI-Terra Rankaは、エンバロ大統領が12月に議会を解散したことを受け、民主的制度を回復するため、国際社会がギニアビサウに介入することを求めた。(12日 DW)
- 11日、市民社会組織のサンハ代表は、国民議会議員選挙からわずか4か月後に大統領主導の政府が成立することは国民の意思に反するものの、政治的安定性を維持するならそれが唯一の方法だとの見解を示した。(13日 O Democrata)
- 13日、政府は、UNDPと再生可能エネルギーと持続可能な開発を促進する事業の実施のため、約3

40万米ドルの合意を結んだ。(13日 O Democrata)

- 19日、エンバロ大統領は、昨年12月13日から閉会状態となっている国民議会の選挙を今年の10月から11月に実施する方針を示した。(19日 DW)
- 25日、在ギニアビサウ日本大使館は、対ギニアビサウ草の根無償「ビサウ職業訓練学校建設プロジェクト」の開校式、及び無償資金協力「食糧援助(WFP連携)」の交換公文の署名式を実施した。(26日 radiovozdpovogb)
- 29日、エンバロ大統領は、フランシスコ・ローマ教皇の招待によりバチカンを訪問した。(29日 大統領府 Facebook)
- 国際NGOトランスペアレンシー・インターナショナルの腐敗認識指数2023年版で、ギニアビサウはアフリカのポルトガル語圏で最も腐敗している国に位置づけられた。(31日 voa portugues)

(注)本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。

(了)